



知的ネットワーク構築のために

遠足は、まあ遠足らしからぬ…という部分もあったから同情の余地がないわけではないのだが、ダ・ビンチ展の方は30分くらいで出てきてしまった人たちもいて、もうちょっとしっかり見たらどうかと思った。しかも、せっかく作った見学グループがまったく機能していないらしく、最後の解散の場面では、グループが揃うまで手持ち無沙汰に過ごしている人も多く、それもまたどうかといった感じである。こういうことがあると、修学旅行の行動やレポートに関する「縛り」はより厳しくならざるを得ない。遠足・旅行担当の先生が納得するくらいのレポートを提出して、一見遊んでいるように見えても、実はしっかりやっていたということをアピールしておいた方がよさそうだ。

＊

しかし、どちらの展覧会にしても、このような機会がなければ出かけていないという人の方が多いのではないだろうか。かくいう私も、この遠足がなければ出かけることはなかっただろう…って、フィレンツェですで見ただやつもあるからね…自慢（笑）。

で、自慢話をしているのではなく、担任としては、こういう機会を積極的に利用するような気持ちになってほしいと思うのである。

身体が成長するためには、いろいろな栄養素をバランスよく摂取することが必要で、そのためには好き嫌いをなく色々なものを食べることが求められる。知能の成長（発達）も同じことで、高校くらいまでは、できるだけ好き嫌いをなくバランスよく知能の栄養素（各科

目の勉強）を摂り込むのがよいのである。

ところが人間は、自ら進んで嫌いなものを食べたり勉強したりはしない。だから、学校という組織では、無理強いして勉強させたり行事に参加させたりしているのである。（逆にいえば、大学に行くためだけに勉強している人は、わざわざ教養主義と文武両道、つまりバランス主義を宣伝している日比谷にいる必要はない。さっさと高卒認定試験を受けて、予備校などで受験準備をすればイイ…）

つまり、自ら進んで興味を持っていないことにこそ、学校がそれを用意してくれたら、「こういう時くらい我慢してチャレンジしてみるか」といった気持ちで取り組んでみるのが重要なのである。結果としてやはり興味をもてなかったとしても、まったくそのことに触れておかないのと、ちょっとでも触れておいたのとでは、後々大きな違いとなってくるからである。知識はネットワーク化してこそ力を発揮する。一見興味を持っていない・関心がないといったことが、後々大切な知識ネットワークの重要な結節点となってくるかも知れない。そういうことを認識して、積極的に知識のネットワークを構築し、広げる努力をしてほしいと思うのである。

＊

国公立にしる私立にしる、有名な進学校ほど行事が多いことの背景には、上述のような側面もある。行事の中で人間関係を作り、知識を広めあうことが、結局は入試という知識のネットワーク化が求められる瞬間に、大きな力を発揮することを知っているのである。